

第6学年 社会

【地球館2階】科学と技術の歩み

内容(2)ア(ク) 江戸時代の町人文化と新しい学問

(2)ア 次のような知識及び技能を身に付けること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。

(ク) 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解すること。

(学習指導要領p.58)

2. 江戸時代の科学技術



①江戸期の和時計技術の最高峰 万年時計



④大日本沿海輿地全図



④伊能忠敬使用の中型象限儀 (レプリカ)

④製図道具一式



④日本人が作った地球儀

▶伊能忠敬の全国測量は緯度一度の距離測定が目的で、そのためには日本各地の正確な天文観測が必要であった。象限儀はそのための観測器具の一つで、師である間重富が「霊台儀象志」などを参考に工夫して作らせた天体の角度測定器である。



⑥解体新書

▶腑分けに立ちあった杉田玄白、前野良沢らが、解剖した臓器と蘭書中の図を比べ、その正確さに驚き翻訳を決意し、1774(安永3)年に出版した西洋解剖書の翻訳書。我が国最初の本格的な蘭書翻訳書であり、この出版を契機に蘭学が興るなど、医学だけでなく日本の近代文明の西洋化に多大な影響を与えた本である。



⑦エレキテル
平賀源内製の摩擦起電機 (レプリカ)

▶1776(安永5)年頃、平賀源内製の摩擦起電機。日本で初めて製作された電気の機械。ガラスの円筒と金箔を貼った枕が擦れることによって静電気を発生させる。

・国学や蘭学については、本居宣長が我が国の古典を研究し、国学の発展に重要な役割を果たしたこと、杉田玄白らがオランダ語の医学書を翻訳して『解体新書』を著したことで、伊能忠敬が全国を測量して精密な日本地図を作ったことなどが分かることである。

・歌舞伎や浮世絵の作品、『解体新書』や日本地図などの学問の成果などを資料で調べ、それらをまとめることが考えられる。(学習指導要領解説社会編 p.119)

【日本館2階北翼】日本人と自然

1. 日本人の旅

内容(2)ア(ア) 狩猟・採集や農耕の生活

(2)ア 次のような知識及び技能を身に付けること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。

(ア)狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化したことを理解する。(学習指導要領p.58)



①縄文人、縄文犬



①弥生人、弥生犬

3. 巧みに生きる縄文人

▶ 1万2千年以上続いた縄文時代には、時代や地域によってさまざまに異なる形の縄文土器が作られた。縄文土器のなかには火焰型土器のような豪華で立体的な装飾をもつものがある一方で、繊細で調和を感じさせるスタイルの土器もある。



③火焰型土器



②貝塚剥ぎ取り

4. 大陸から来た弥生人



⑤銅鏡(三角縁神獣鏡)



⑤石庖丁



⑤縄文・弥生の米づくり

貝塚や集落跡などの遺跡、土器などの遺物について、地域にある博物館や資料館などを利用して調べたり、身近な地域に残されている古墳を観察・見学したり、当時の様子や人物の働きなどを資料で調べたりして、年表などにまとめること
(学習指導要領解説社会編 p.111)

8. 日本人と自然のいとなみ

理科・社会の学習に関係する
様々な展示を見られる

【地球館1階】地球史ナビゲーター

地球館の展示室全体を
繋げるシンボルゾーン



現代人(ホモ・サピエンス)
頭骨



縄文土器



キログラム分銅



骨製棹秤



京杓
江戸時代を通じて体積をはかる基準とされた